

伊豆天城山～優しさに包まれて～

【報告者】Y川

【日時】2018年6月17日

【天候】曇り(稜線は霧、南風)

【参加者】Y川(CL) M原(記録)

《コースタイム》

07:00 三島駅集合 09:00 水生地下(登山開始) 10:30-11:00 八丁池 12:00 戸塚峠
13:00 万三郎岳 14:30 天城高原 GC(登山終了) 16:10 伊東駅

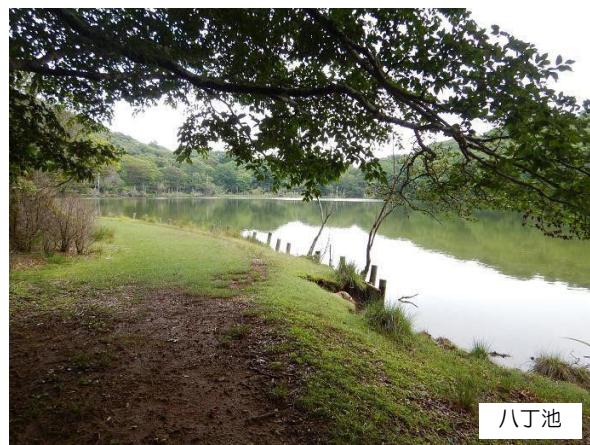
《 報 告 》

帰省するついでに関東の山に少し登ってこよう。そうだ、折角だから M 原氏(注 1)にも声を掛けてみよう。…という感じで今回の山行に至る。今回は伊豆天城山を水生地下(西)から天城高原 GC(東)へ縦走する。アップダウンはあまりなく、距離や高低差は三郡縦走に似ている。

朝 7 時に三島駅に集合し、伊豆箱根鉄道を修善寺駅まで乗る。そこからバスに乗り換えて、天城峠(注 2)近くの水生地下(標高 600m)で下車。登山口までは林道を 30 分ほど歩く。途中の枝沢には柵田のようなワサビ畑がこしらえてある。ワサビは水のきれいな土地で育つというが、この水生地という地名からもそのことが納得できる。登山口からは水生地歩道というルートを沢沿いに登るが、なだらかな登りが八丁池まで続く。森の木々はあまり密に生えておらず、爽やかな風が吹き抜ける。しかし、梅雨の湿気のせいで暑い。

八丁池は周囲 500m 程の池である(注 3)。テン場のような草地があり、休憩に好適である。例によって M 原氏がドローンを飛ばしていると、一人のおじさんが興味を示した。地元河津からよくいらっしゃるそうで、南アルプス深南部(注 4)にも詳しいらしい。30 分ほど休憩をとり、八丁池を後にする。八丁池からは稜線歩きになるが、ブナやヒメシャラの森が美しい。アップダウンゼロの快適な登山道は、驚くほどスイスイ歩ける。今まで歩いた山々の中でもとりわけ優しい山である。何となく、ひざまくらをしてもらっているような、包み込まれるような感覚を感じる。

戸塚峠から先は少し岩の露出が多くなり、傾斜も大きくなる。上り下りとも泥滑りに注意して歩く。万三郎岳(1406m)は伊豆半島最高峰であるが、山頂も樹林帯であり眺望は得られない(注 5)。ここでもドローンを飛ばせばよいが、霧と風でそれも難しい。時期的な問題であると思うが、今回の山行では



八丁池



心優しき天城の森

花をあまり見なかった。普段山で花を見てもあまり興味を示さない男二人であるが、見かけなければそれはそれで少し寂しいものである。万二郎岳からは南方の眺望が得られるが、真っ白である。きっと大きな太平洋が見えるに違いないが、今回は想像でごまかすことにしよう。万二郎岳からは北に 40 分ほど下れば伊豆高原ゴルフ場のバス停に着く。ゴルフ場には団体用のバスが停まっており、頂上直下ですれ違った山岳会はこのバスを貸し切って来たらしい。天城山はこちらの伊東側から登る人が多いようだが、「優しさ」を感じるなら、天城峠の方から入る方が断然良い。実は、八丁池の南側(注 6)まで車で入ることができ、子連れの高キングにも丁度良いだろう。

伊東駅には 16 時過ぎに着いた。このまますぐ電車に乗って帰ってもいいが、折角だから伊東でゆっくりしていこう。伊東は鄙びた温泉地だが、共同浴場は 250 円と安い。町には磯料理の店が多く、我々は海沿いの店でアジのタタキを頂いた。地元民がよく来る店のようで、確かにうまい。帰りは東海館(注 7)や昭和のアーケード街を経て伊東駅へ。17 時過ぎの電車に乗って、熱海駅で 18 時前に解散する。



九州に住む我々が(百名山とは言え)伊豆の山に来ることなど、滅多にあることではないだろう。今回も、山行の提案に快く応じ、楽しく登ってくれた M 原氏に感謝する。注 1 にも記した通り、M 原氏の帰福が待ち遠しいが、仕事の予定は直前になるまでわからないという。もしかしたら、金峰瑞牆、伊豆天城に続く第三弾、第四弾が執り行われるかもしれない…？ 最後になりますが、本山行を支えてくださったピナクルの皆様、留守宅の A 屋さん、ありがとうございました。

注 1 M 原君は静岡県御前崎市に長期出張中である。早期の帰福が望まれる。

注 2 川端康成の『伊豆の踊子』や、松本清張の『天城越え』などのテーマになっている。

注 3 昔の単位で、一丁とは約 110m を表すらしい。実測では五丁程しかないが、八丁池である。

案内板には冬の八丁池でスケートを楽しむ人々(昭和 30 年頃)の写真が掲げられている。

注 4 大無間山などよりもさらに南の山城。鳥獣うごめく魔境であり、人の立ち入る場所ではないという勝手なイメージがある。

注 5 低山あるある。

注 6 寒天駐車場。エリアには許可が必要とのただし書がある。

注 7 昭和初期の温泉施設。松山の道後温泉本館みたいな感じ？

《 追 記 》

八丁池で会ったおじさんは、写真豊富なブログ

伊豆(南豆のやま) <https://blog.goo.ne.jp/nanzunoyama>

を開設しており、6 月 17 日のことも記事にされている(写真には我々もなんちゃって映っている)。静岡や山梨の山々を地形図頼りに踏破するスタイルの方のようである。

この方は、我々が三週間前の登山(金峰山・瑞牆山)で注目していた瑞牆山東尾根も踏破されている。ブログにも記事があり、とても参考になる。瑞牆山東尾根は、瑞牆山から大日岩・小川山の稜線に向かって伸びる吊り尾根で、高低差はほぼない。大日岩から眺めると、幾つか岩場を巻くような感じだが、

地形図を見ると、さほどきつそうにも見えない。しかし、特に下調べをしたわけではないので、5月27日の山行時は八丁平から天鳥川源流を下ることにしたのである。きっとまた何時か登る山だから、その時に試みることにしよう。

